その相談が治療への第一歩に

～ 相談支援から院内連携につなぐ肝炎医療コーディネーターの活動 ～

弘前大学医学部附属病院
肝疾患相談センター 相談員　小杉　あおい

本日の内容

1. 肝炎医療コーディネーターの役割
2. 肝疾患相談センターの活動体制
3. 相談支援の実際
4. 相談から受診・受療につながった事例
5. 院内連携で実現できたこと
6. 課題と今後の展望
7. まとめ



1. 肝炎医療コーディネーターの役割

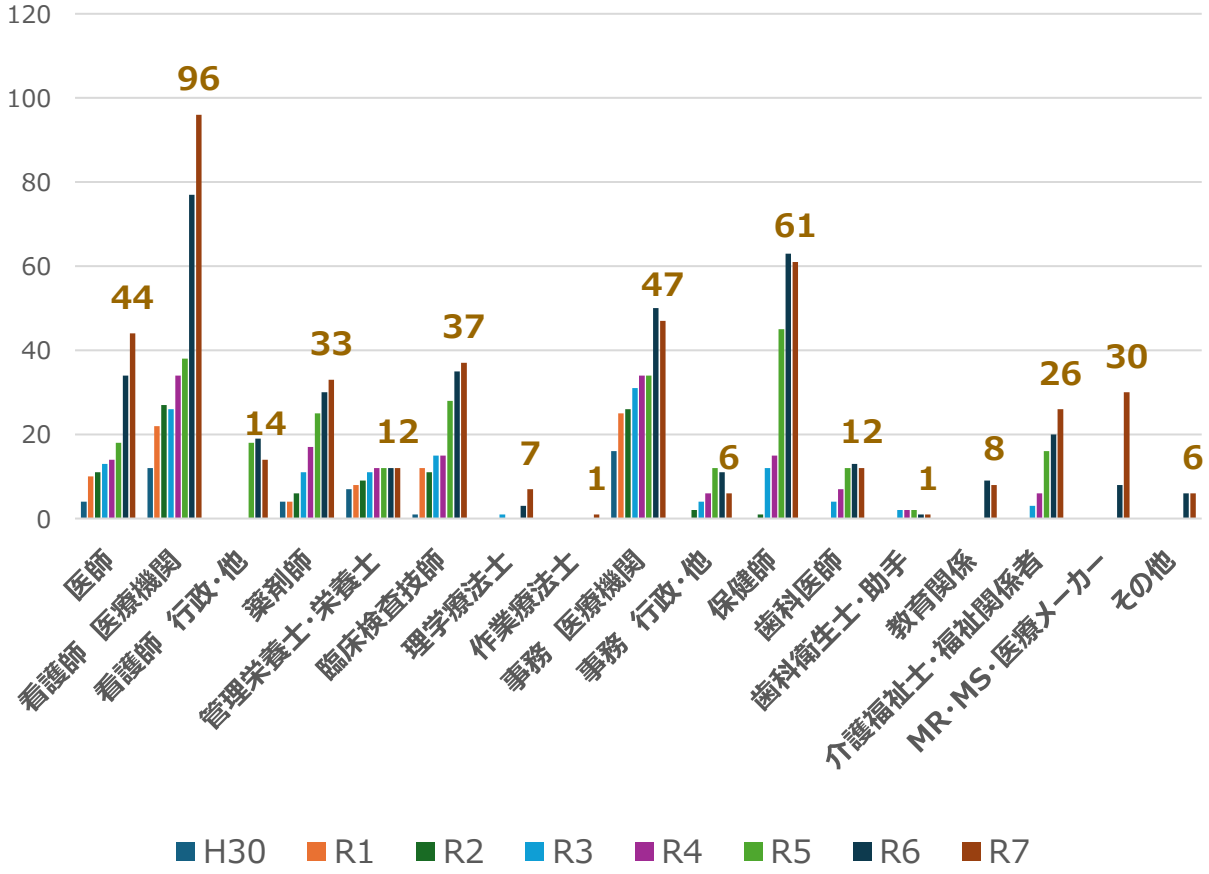


肝炎医療コーディネーターは、患者さんを次のステップへつなぐ「橋渡し役」です。

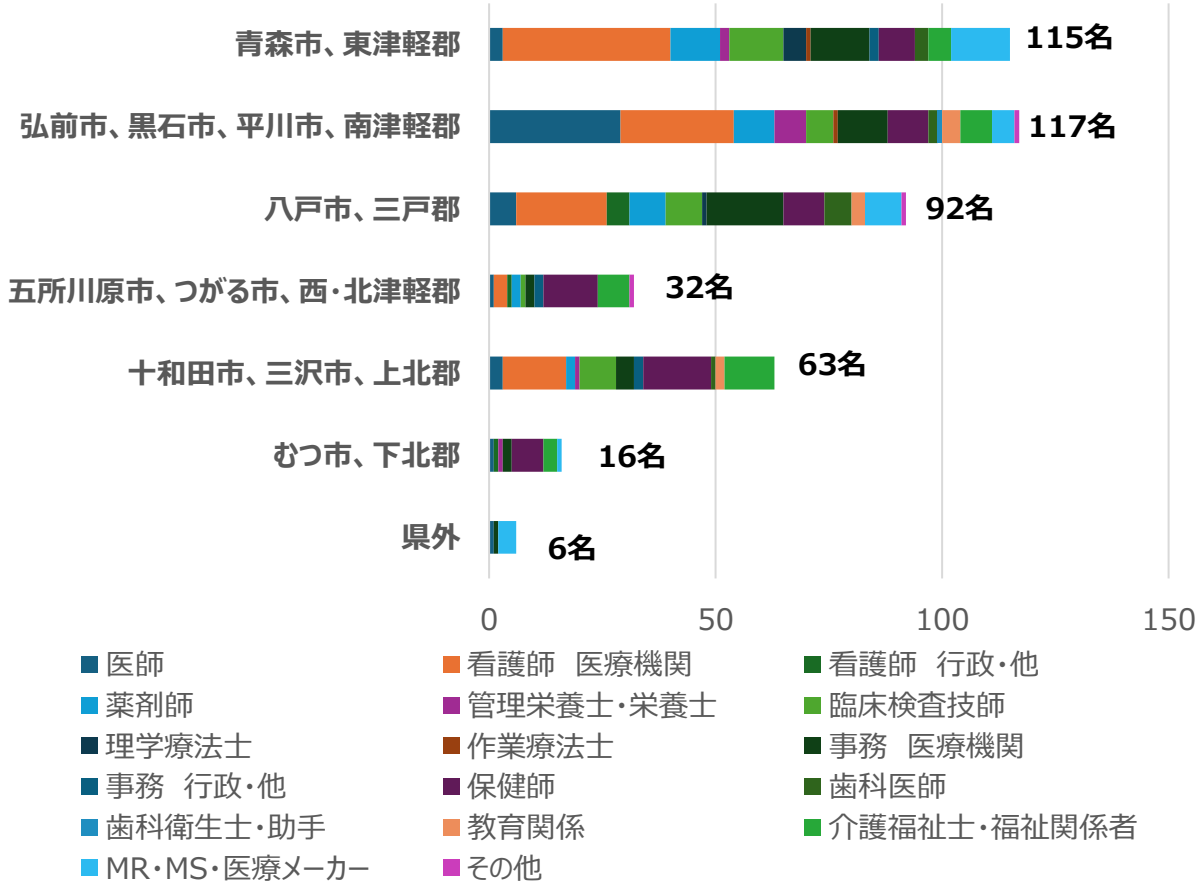
青森県の肝炎医療コーディネーター

（441名　※R8.4時点）

職種別　※数字はR7年度の人数



地域別（R7）



2. 肝疾患相談センターの活動体制

肝疾患診療連携拠点病院
弘前大学医学部附属病院

総合患者支援センター（肝疾患相談支援部門）
肝疾患相談センター

肝疾患に関する専門医療機関　（12医療機関）

- 青森県立中央病院
- 青森市民病院
- 独立行政法人国立病院機構 弘前総合医療センター
- 黒石市国民健康保険 黒石病院
- 八戸市立市民病院
- 八戸赤十字病院
- つがる西北五広域連合 つがる総合病院
- 十和田市立中央病院
- 三沢市立三沢病院
- むつ総合病院
- 津軽保健生活協同組合 健生病院
- 津軽保健生活協同組合 健生クリニック





肝疾患相談センター



病棟看護師


管理栄養士



薬剤師

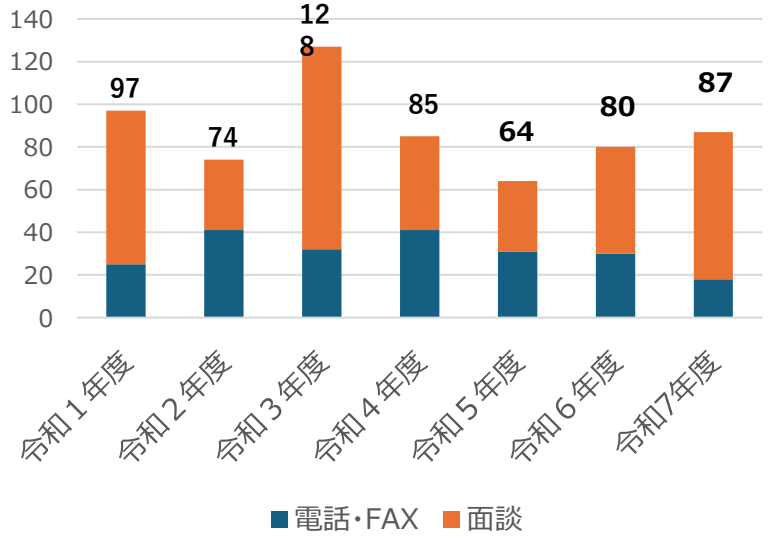
弘大肝Co（32名）１０月現在

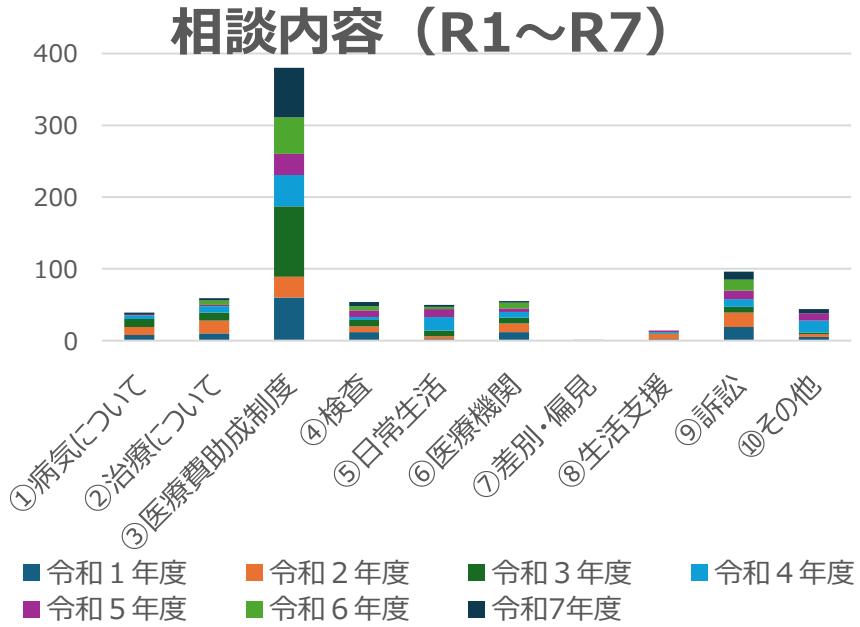
医師 10名、看護師 11名、管理栄養士 3名、
薬剤師 5名、臨床検査技師 1名、事務 2名

肝疾患相談センターの活動

活動内容

・相談対応（電話・面談）
・医療費助成制度案内
・肝臓病教室開催
・市民公開講座開催
・肝Co研修会の開催
・啓発活動

















3. 相談支援の実際

相談者

どうしたらよいか分からない

- 検査結果が陽性だった
- 治療が必要か知りたい
- 医療費が心配
- 通院を続けられるか不安
- 家族への影響が心配



肝疾患相談センター

電話や面談で相談対応

- 相談受付
- 内容確認
- 情報提供
- 継続支援
- 相談シート作成



相談シート









匿名化



肝疾患相談センター
相談支援システムへ入力



肝炎情報センター
模範解答マニュアル化

4. 相談から受診・受療につながった事例

①未治療B型肝炎患者の受診支援　（女性・70代）

面談
50分

（相談内容）

- 25年前にB型肝炎と診断されたが未治療。
- ●●病院の整形外科受診時に肝疾患の精査を勧められた。
- 昨年頃から疲労感があり、肝臓について相談を希望。
- 総合患者支援センターより肝疾患相談センターへ。

（対応：相談員）

- 当院の他科より、アラートシステムを活用し、消化器内科受診につなげた。
- B型肝炎訴訟制度について情報提供を行った。

（経過）

- 採血・腹部超音波検査を実施。
- HBV高ウイルス量を認めたが、肝障害や肝硬変なし。
- 当科での経過観察のとなり、半年後に再検査を予定。
- 継続的なfollowを目的に、肝臓専門医が在籍する指定医療機関へ紹介となった。

長期間未受診であった患者を専門診療へつなげ、継続的な肝炎管理につなげることができた

②人間ドックでB型肝炎を指摘されたケース（男性・年齢未聴収）

（相談内容：１回目）

- 人間ドックでB型肝炎を指摘され、精密検査を勧められた。
- 受診先や治療内容について相談あり。
- 「B型肝炎は薬で治る」と説明を受けたが本当？

（相談内容：2回目）

- ●●病院では希望する検査に対応していない。
- ■■病院は予約が２か月先となり、他の受診先を希望。

電話
10＋５分

（１回目の対応：相談員）

- 専門医療機関の●●病院、■■病院を案内。
- B型肝炎の治療はウイルスの完全排除ではなく、増殖を抑える治療が中心であることを説明。

（２回目の対応：相談員）

- 肝臓専門医在籍の指定医療機関の情報を提供し、受診先選択を支援した。

相談者が自身の希望や状況に応じた受診先を選択できるよう支援し、適切な受診行動につなげることができた。

③肝細胞がん再発を繰り返すC型肝炎患者の家族からの相談

電話
15＋5分

（相談内容）

- 子から父親について相談。
- C型肝炎未治療のまま経過し、肝細胞がんの再発を繰り返している。
- 「今後も再発するのか」「C型肝炎治療は可能か」と不安を抱いていた。

（対応：相談員→　肝臓専門医）

- 専門医へ確認し、肝細胞がんは再発を繰り返すことがあることを説明。
- 活動性の肝がんがある場合は、DAA治療を行えないことを説明。
- 現在の受けている治療はTACE（肝動脈化学塞栓術）である可能性が高い。治療は適切に行われており、引き続き同院で経過観察・治療を受けてよいのではと伝えた。

家族の不安軽減につながり、現在の治療方針について理解・納得が得られた

5. 院内連携で実現できたこと

ひとりではなく、多職種で支える

患者・家族

肝疾患相談センター

専門医
他科医師
看護師
管理栄養士
薬剤師
事務　等

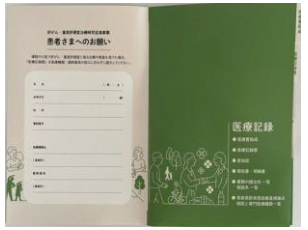
治療開始・継続

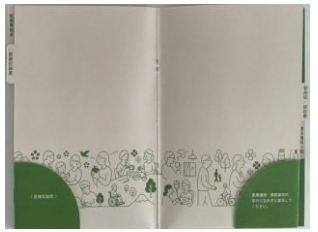
～ 本来の仕事の中で肝Coとしての知識を活かす ～

- **相談対応**（専門医、看護師、管理栄養士）
- **受診勧奨**（看護師、他科医師）
- **治療導入支援**（専門医、薬剤師）
- **助成制度利用支援**（専門医、看護師、事務）
- **継続受療支援**（看護師、事務）
- **肝臓病教室**（専門医、看護師、管理栄養士、薬剤師）
- **啓発活動**（院内肝Co）

（医療費助成支援）
肝がん重度肝硬変治療研究促進事業







オリジナルファイル作成

6. 課題と今後の展望

より多くの方を支援するために

課題
- 肝炎医療コーディネーターの認知度がまだ十分ではない
- 検査陽性者や治療中断者への継続的な支援
- 地域による活動状況の差
- 多職種間の情報共有と連携のさらなる強化

今後
- 院内肝Coミーティングを継続し連携を強化
- 県内肝Co同士の情報共有と活動支援
- 地域医療機関・行政との連携拡大
- ホームページや研修会を活用した啓発活動の充実
- 受検から受療継続まで切れ目のない支援体制の構築

院内肝Co
ミーティング





・弘大肝Co名簿作成
・ミーティングの開催
・メールでの情報共有
・病棟看護師活動モデルを構築



予定
肝Co専用
ページ
「活動報告」



7. まとめ

- 相談は受診・治療への第一歩となる
- 肝炎医療コーディネーターは患者さんを次のステップへつなぐ橋渡し役である
- 院内連携により、受診・治療・継続受療を支えることができる
- 多職種それぞれの立場で肝Coとして活動することが肝炎対策につながる



ご清聴
ありがとうございました

弘前大学医学部附属病院
肝疾患相談センター
青森県弘前市本町53
0172-33-5111（4020）
https://www.hirosaki-u-liver-center.com/

